



片柳中学校だより

片 柳

第6号 令和7年8月27日発行
さいたま市立片柳中学校
さいたま市見沼区大字御蔵551
TEL048-683-3173

<学校教育目標> 夢をはぐくむ学校 ○自ら学ぶ生徒 ○心豊かな生徒 ○心身を鍛える生徒

挑戦の先にある成長と感動

校長 佐久間 貴宏

甲子園での高校野球では、球児たちがひたむきに白球を追い、高校生とは思えないほどの技術と力を発揮し、激戦を繰り広げます。その姿に、多くの人々が感動を覚えます。また、ドジャースに所属する大谷翔平選手の活躍には、驚かされることばかりです。屈強な選手たちが揃うメジャーリーグにおいて、彼は突出したパフォーマンスを見せています。二刀流という挑戦は、これまでの常識を覆し、周囲の行動や判断に変化をもたらす力を持っています。彼の姿は、私たちに驚きとともに勇気を与えてくれます。

さて、第52回全日本中学校陸上競技選手権大会が、埼玉から約1600km離れた南の地、沖縄県総合運動公園で開催されました。天候は快晴で日差しが強く、沖縄特有の小雨が時折ぱらつく中、スタンドで観戦しているだけでも体力を消耗するような猛暑の中での競技となりました。片柳中学校からは、前回全国大会の覇者・飯塚俊介君と、8月に行われた関東大会の覇者・大森蒼以君の2名が男子棒高跳びに出場しました。

多くの選手が苦戦する中、2人は4m50cmをクリア。途中からは他の選手が跳べなくなり、全国大会の舞台でも、他の大会と同様に2人だけの優勝争いとなりました。

大会記録となる4m80cmを飯塚君が1回で成功させると、大森君は2回失敗。突然の積乱雲による大雨の中、3回目の跳躍に挑みました。観客も不安を募らせる中、後に本人に聞くと「すでに諦めかけていた」と語っていました。しかし、見事にバーは落下せず、雨で濡れたマットに水しぶきを上げながら成功。さらに、大森君は5m05cmを跳び、最終的にその記録で優勝を果たしました。全国大会の最終局面で、片柳中学校の2人が争い、共に大会新記録で優勝・準優勝を決めるという驚くべき結果となりました。これにより、片柳中学校は男子棒高跳びで全国三連覇を達成。毎年異なる選手が優勝者となり、3年連続で全国の頂点に立ちました。



男子 棒高跳 決 勝	順位	選手名	学校	記録
1	1164	大森 蒼以 (3)	片柳中	5m05NGF
2	1163	飯塚 俊介 (3)	片柳中	4m80NGF
3	2317	小林 碧 (3)	厚生中	4m40
4	1448	蜂谷 洸季 (3)	中山中	4m35
5	3605	武藤 優心 (3)	観音寺中	4m30
6	2320	上野 清大 (3)	桜浜中	4m30
7	3609	西村 颯真 (3)	高松一	4m20
8	3002	岡中 亮祥 (3)	近大和歌山中	4m20
9	1124	堀地 陽太 (3)	三郷瑞穂中	4m20

以前、生徒の皆さんに向けた校長講話で「準備の重要性」についてお話ししました。物事の成否は、準備によって決まるということです。彼らは小学校から体操競技を始め、その経験を生かして棒高跳びの技術を高めてきました。また、彼らの活躍の裏には、友人、コーチ、顧問、保護者、そして周囲の人々の支えがあり、決して選手だけの努力ではないことも忘れてはなりません。

目指すべき目標は、人それぞれ異なります。その高さも人によって違いますが、目標に向かって努力すること自体が尊い行為です。やる前から「無理だ」と消極的になることもあるかもしれませんが、今よりも成長した自分を目指し、一步一步進んでいく皆さんであってほしいと願っています。今日から始まる二学期も、それぞれにとって実り多きものとなるよう、頑張っていきましょう。頑張れ、片中生！